SDGs　SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

成長につなぐ ― 事例17ゴールズ＆169ターゲット

111

志村プレス工業所

製造業にとって省エネは大きな課題だ。特にさまざまな設備で多品種少量生産に対応する金属加工業では管理も容易ではない。

プレスから板金、レーザー加工、溶接まで手がける志村プレス工業所（愛知県小牧市、志村正広社長）は、工場の省エネで大きな成果を挙げている。志村社長はセミナーなどで自社の事例を紹介する。「皆にも利益を上げてほしい」（志村社長）と、惜しげもなく体験を伝えるのは自らもエネルギーコストに悩んでいたからだ。

同社はプレス加工で創業後、業容を徐々に変えて現在のように多彩な設備を保有するようになった。その過程で少しずつ拡大したエネルギ

炭酸ガスレーザー加工機から、エネルギー効率の高いファイバーレーザー加工機へと置き換えた生産現場

省エネ推進 加工金属端材も有効活用

ーコストを見直すきっかけとなる出来事が起きる。2011年の東日本大震災だ。

震災直後に電力会社から電気代の値上げ交渉があり、エネルギーの使用状況の見直しに着手した。専門家による診断で、エネルギー消費の主要因は炭酸ガスレーザー加工機とコンプレッサーだと分かった。

そこで14年にエネルギー効率の高いファイバーレーザー加工機を導入した。15年にはコンプレッサー2台を、生産状況に応じて1台のみの稼働に制御できる機種に替えた。

同時に工場の配管やエアー漏れを見直し、全体で省エネ効果を高めている。決して安い投資ではないが、補助金も活用して決断した。

志村社長は「効率化には投資が不可欠」と訴える。省エネで創出した利益は空調の改善に振り向けた。社員の労働環境を改善した後には、さらに働きがいを追求する新たな取り組みを始めている。

現在、社内で発生した金属端材を若手の訓練に活用している。端材は加工後に収納小物にして社員の創造性を刺激している。この取り組みはチタン製アクセサリーを製造する新規事業に発展した。

省エネも端材の活用も時流を捉えた環境に配慮したモノづくりの追求だ。「皆で実行すれば地球環境にプラスになる」（同）。思いを伝えるため工場見学にも積極的に応じている。

世界の水問題「水のIPCC」構想

東京大学 大学院工学系研究科教授
総長特別参与
沖 大幹

未来を変える

国連が10月に公表した共同報告書「世界の飲料水の現状・すべての人々の安全な飲み水確保の進捗を加速する行動の緊急要請」によると、過去20年で20億人が安全に管理された飲料水を利用可能となり、2000年には60%であった人口割合が2020年には74%となった。しかし、いまだに約20億人、世界人口の4分の1が安全に管理された飲料水を利用できず、それが150万人の主な乳幼児死亡原因となっている。

世界気象機関（WMO）と国連防災機関（UNDRR）は、世界銀行などとまとめたこの報告書は、健康維持や生産性向上等による投資費用の見返り（ROI）の中間年である、前回の国連水会議は約30年前、1977年3月のマル・デル・プラタまでさかのぼる。時代の変化に対応する政府間パネル（IPCC）の評価報告書のように、科学的知見に基づき世界各国の政策決定を支援する水の評価報告書を定期的に発行する仕組みを構築しているところ、という。

今でも国際水の日（3月22日）に合わせて世界水諮

農村部では6倍以上あり、例えば鼻が傷られ能力開発途上の政府であってもSDG6・1の達成に向けて重要な一歩を踏み出すことができる方法は数多くあるとし、ガバナンス、食糧供給、能力開発、データと情報、イノベーションについて説明的な提言がなされている。

本報告書は年3月にニューヨークで開催予定の国連水会議に向けて準備されたもの。23年は国連による「水に関する行動の10年」世界的な水危機を回避するために、各国の政策への影響力を高めるべく、各国の政策への影響力を高めるべく、各国の政策への影響力を高めるべく